

大草谷津田生きものの里 自然観察会

夏の谷津田はムシ天国

木下順次（千葉市）

日 時：2024年7月21日（日）9：30～11：00 天候：晴れ

参加者：30名（大人13名 子ども17名） 指導員：7名 計37名

担当指導員：木下 西野 松本（参加指導員：相吉 内島 岡田 奥村）

前日未明に始まった激しい雷雨が朝方まで続いた、当日の朝。園路はぬかるみ、下草は露でびしょびしょの状態だった。

早くも気温が上昇しだし、猛暑の予感を醸し出す。7月の大草観察会は「少しでも涼しいうちに観察を」ということで、9時30分スタートなのだが、風がなく、湿度も高いので、汗が噴き出してくる。本日の観察会には10家族30名が集まった。

3班に分かれて順次出発することにしたので、時間前に集まった参加者をまとめて、10名ほどで先に出発した。田んぼに出る前に、胴を喰われて頭と胸だけになっても脚を動かすカブトムシ、コクワガタ、ノコギリカミキリ、ミヤマカミキリ、など子供に人気の甲虫がすぐに何匹も見つかった。

スギ林跡の原っぱでは今年孵ったばかりのショウリョウバッタ、オオカマキリなどまだ羽のない幼体がたくさん見つかる（ズボンの裾はずぶ濡れになってしまったが・・・）。

今回ばかりは目移りがしてダンゴムシや小さな甲虫、などには目もくれない。こんなことではと思い、しきりに地面の生き物を見つけては説明するのだが、どうも気持ちは大物の生き物に向かっているようだ。

玉露に覆われたタマムシ

途中めずらしく生きたタマムシを発見した。体が露におおわれているので、乾くのを待っているのか、じっと動かない。後のグループにと思って虫カゴに入れようとしたが誤って草むらに落としてしまった。後から来た班の人たち、ごめんなさい。



谷津に出るとシオカラトンボが乱舞している。合間合間にシジミチョウやシロチョウの仲間も飛んでいる。子供たちはしきりに網を振るが飛んでいる蝶や蜻蛉は全く捕まえることができない。シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ノシメトンボなど大草の定番トンボと戯れているとギンヤンマやハグロトンボなどの単騎ものも姿を見せてくれた。

途中何度か水分補給タイムをとりながら、梅雨明けしたばかりの盛夏の谷津田で虫取りのひとときを過ごす。畦わきの草むらが茂ってしまって水路とみちの際がわからず、田んぼに足を落とす子、何やら虫に刺されて吸出し器のお世話になる子など、ちょっとしたトラブルはあったものの（斯く言う自分もノコギリクワガタに噛まれて流血騒ぎを起こしてしまった←大袈裟！！）夏らしい、楽しい虫探しができた。